

# 横浜市民に対する娯楽と生活習慣に関する調査 (調査結果の取りまとめ)

## 横浜市都市整備局

令和2年3月23日

- 横浜市民に対する娯楽と生活習慣に関する調査を行うことで本市におけるギャンブル等依存症に関する実態を把握するため、横浜市都市整備局では、令和元年度に市民に対する実態調査を実施し、ギャンブル等依存症が疑われる者の割合などを調査した。
- 本調査では、市内 208 地点の住民基本台帳から無作為に対象者を抽出し、面接調査を実施した。調査対象者数は 3,000 人であり、回答者数は 1,263 人（回収率 42.1%）であった。
- 調査にあたっては、面接調査及び調査結果の入力・集計、報告書の作成を一般社団法人 輿論科学協会に、報告書の作成に必要な統計処理を横浜市立大学に委託して行った。  
また、調査項目及び評価の監修等について、独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センターに依頼して行った。

## 実態調査により、明らかになった結果

- SOGS (※1) を用いて、過去1年以内のギャンブル等の経験等について評価を行った結果、「ギャンブル等依存症が疑われる者」の割合の推計値は、成人の0.5% (0.3~1.1%) (※2) になった (平均年齢は60.1歳、男性のみ)。また、「ギャンブル等依存症が疑われる者」が、「最もよくお金を使ったギャンブル等」については「パチンコ・パチスロ」だった。「ギャンブル等依存症が疑われる者」の過去1年以内の賭け金は、平均で1か月に25万円 (※3) (中央値 (※4) は3万円) だった。

(※1) SOGS (The South Oaks Gambling Screen) は、世界的に最も多く用いられているギャンブル依存の簡易スクリーニングテストである。12項目 (20点満点) の質問中、その回答から算出した点数が5点以上の場合にギャンブル依存症の疑いありとされる。

(※2) 数値は性別・年齢調整後の値。( ) 内は「95%信頼区間」を表しており、同様の方法で標本調査と区間の作成を100回行った場合、そのうち95回程度で真の値を含む区間のことである。

(※3) ギャンブル等には「証券の信用取引、または先物取引市場への投資」に係る高額案件が含まれる。(高額案件を除いた平均は1か月に3万円)

(※4) 中央値とは、データを大きさの順に並べたとき、全体の中央に位置する値のことである。

- SOGSを用いて、生涯を通じたギャンブル等の経験等について評価を行った結果、「ギャンブル等依存症が疑われる者」の割合の推計値は、成人の2.2% (1.5~3.4%) になった。ただし、この中には、調査時点で過去1年以上ギャンブル等を行っていない者が一定数含まれており、例えば10年以上前のギャンブル等の経験について評価されている場合があることに留意する必要がある。

別紙

## 娯楽と生活習慣に関する調査の概要

調査実施主体	横浜市都市整備局		
調査手法	面接調査		
対象者の選択方法	市内 208 地点の住民基本台帳より無作為に抽出		
調査対象者数	3,000 人		
回答者数	1,263 人 (回答率 42.1%)		
ギャンブル等依存症が 疑われる者 (SOGS※1)5 点以上、 過去 1 年以内)	推計値	0.5% (0.3~1.1%) (※2)	実数 7 人 / 1,263 人
	(内訳※3)「パチンコ・パチ スロ」に最もお金を使った者	0.2% (0.0~0.6%)	2 人 / 1,263 人
ギャンブル等依存症が 疑われる者 (SOGS 5 点以上、生涯)	推計値	2.2% (1.5~3.4%)	28 人 / 1,263 人
	(内訳※4)「パチンコ・パチ スロ」に最もお金を使った者	1.6% (1.0~2.6%)	20 人 / 1,263 人

(※1) SOGS (The South Oaks Gambling Screen) は、世界的に最も多く用いられているギャンブル依存の簡易スクリーニングテストである。12 項目 (20 点満点) の質問中、その回答から算出した点数が 5 点以上の場合にギャンブル依存症の疑いありとされる。

(※2) 数値は性別・年齢調整後の値。( ) 内は「95%信頼区間」を表しており、同様の方法で標本調査と区間の作成を 100 回行った場合、そのうち 95 回程度で真の値を含む区間のことである。

(※3) 過去 1 年以内に最もお金を使ったギャンブル等の種別に関する内訳

(※4) 生涯を通じて最もお金を使ったギャンブル等の種別に関する内訳